

# Basic 1 ブーケの製作準備と「基本」を知る

ここではブーケホルダーを使ったブーケの準備と、花材やリボンの扱いを学びましょう。  
 ブーケホルダーは持ち手とスポンジが一緒になったブーケ専用のホルダーのこと。  
 スポンジに花を挿していだけで製作でき、しかも常に花が水を吸えるので、長時間ブーケをいきいきと保てます。  
 ブーケホルダーの扱いと基本を身につければ、ブーケづくりはとっても簡単です！



① 上の写真のように、親指をくるむように2~3cmのループをひとつ作ります。



② 押さえている親指の下で、リボンが光沢ある表の下のように、180度ひねります。



③ リボンのむいている方向にさきより大きめのループを作り、親指の下でひねります。



④ ③のループの逆サイドにも同じ様にループを作り、同じところでひねります。



⑤ ③と④を繰り返して両側にもう一つづつループを作ったら、20cm強のリボンを残します。



⑥ ⑤で残したリボンを指で押さえたら、地巻きワイヤー(白#28)でしっかり留めます。



⑦ リボンのバランスのチェックをしたら、⑥で作った最後のループの真ん中を切ります。



⑧ ⑦で切った下に流るリボンもバランスを見て切り揃えれば、ループリボンのできあがり。

## 1 ループリボンをマスターしよう

いブブウ  
くーリエ  
ひうケボデ  
作えのンイ  
りで裏はン  
方大側、グ  
を切をブブ  
マなー  
ス要しケケ  
タて全に  
ーのく体  
しひれのや  
ととたか  
おつりさ  
きでと気  
まも、を  
しあブえ  
よりーきて  
うまケく  
。すをめれ  
。作たる  
つりル  
て、ー

※ このループリボンに使用するリボンは1m程度です。このキットには3mのリボンが用意されていますので、練習用又はループをふやす等、自由に使用できます。少しシワは残りますが練習用であれば、アイロンでのばしたりすることもできるので、たくさん練習できます。

## ワンポイントアドバイス

ガーベラやヒマワリ、チューリップなど花の向きが不規則なものや、つる性のグリーンはワイヤーで補強することをお勧めします。自分の好きな方向に花をむけることができ、ブーケの型崩れも防げます。(その他の一般的な花には特に必要ありません。)



① 花の裏側から茎に沿うようにして花と茎の付け根に地巻きワイヤー(緑#22~#26茎に負担のかからない太さ)を刺します。正面からワイヤーが出ないように。



② 茎に沿ってワイヤーを巻きおろし、使いたい長さまできたら、ワイヤーが外れないように1cmくらい巻き上げて留めればOKです。



## 2 花材の水揚げ

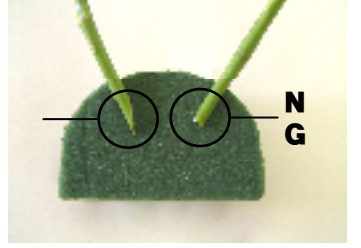
花材は購入後すぐに水揚げをしましょう。製作当日は茎を短く切り戻し、2時間以上十分に水に浸します。予定より茎を短く切りすぎないように注意。涼しいところで保管し花の開きすぎにも気をつけて。



## 3 ホルダーの吸水

ホルダー全体が入る大きめの器にたっぷり水を張ったら、そっとホルダーを浮かべます。スポンジの色が変わり全体が沈むまで2~3分待ちます。この時無理に沈めたり、上から水をかけたりすると中に空気が入ってしまうので、自然に沈むまで待ちましょう。全体が沈んだら、吸水は完了です。

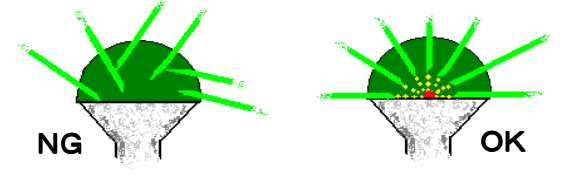
## Point ① 茎は必ず斜めにカット



## 4 スポンジに花を挿そう

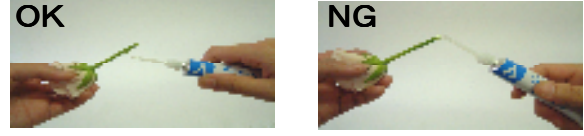
茎先は斜めにカットが基本です。断面が大きく、たくさん水が吸えるのはもちろん、スポンジの穴を小さくし、花の抜け落ちというリスクも減ります。スポンジの中で茎のぶつかりも少なくなります。(写真左を参照)

## Point ② 茎は一点に向かって挿します



上のイラストの左側(NG)は茎の挿す方向がバラバラで、イメージ通りに挿せない原因になります。その上茎がスポンジ内でぶつかったりスポンジが崩れる原因にもなります。花を挿すときは右側の(OK)の様に、スポンジ中央の一点(メカニカルフォーカルポイント)に向かって挿しましょう。埋まる茎の長さは花にもよりますが、約2~3cmくらいが目安です。

## Point ③ 生花用の接着剤で抜け落ち防止



やはり心配なのはブーケを持っているときや、運ぶときなどの花の抜け落ち。そんな不安を解消してくれるのが生花用接着剤です。スポンジに埋まる部分に適量を塗り、そのまま挿すだけ。湿った所でも固まってしまう超スグレモノです。でも、茎の断面に塗ると花が水を吸えなくなってしまうので、茎の側面にぬります。(写真上参照)

ここでは基本的なラウンドブーケの挿し方を身につけましょう。  
大輪のバラとグリーンだけでこんなに華やかなブーケができてしまううえ、グリーンで隙間をうめてしまうのでスポンジが見える心配もありません。間に埋めていくバラやグリーンも季節の小花に変えたりと、アウトラインさえ決めれば色々なラウンドブーケも簡単に製作できます。



## 基本テクニック

### その 中心の花は 濃い目の色で

同色系のグラデーションでブーケを作るときは、中心(フォーカルポイント)に濃い目の花を使うと、収まりのよい配色になります。グリーンは別として、濃い色をサイドにもってくると重い印象になりがちなので、注意しましょう。

### その 中心から放射状に 角度をつけて

花の向きは、一点に向かって放射状に挿します。一点から花が出ているように見えることで、より自然なブーケに仕上がります。

### その 同じ色の花は 一直線上に並べない

写真の縦の直線を見てもわかる通り、中央から濃い目のピンク、淡目のピンクが交互にいられます。もし同色系が並ぶと、そのラインが強強され、優しい印象は半減。一直線上に同色系が並ばないように心がけましょう。

### その どこから見ても きれいな弧を描く

バラやグリーンはもちろんどんな花を使うときでも、ふっくらとした優しい弧を描く様に意識して挿しましょう。自然な弧が描けたら、グリーンや小花で自然な凸凹をつけてもっと印象的に。

## バラとグリーンのラウンドブーケ

ピンクのグラデーションの中に、大輪系のバラから中輪系のバラを織り交ぜ、リズムとアクセントをつけた、少し大人のラウンドブーケ。バラとグリーンで円を描き、優しい弧を意識しながら作るのがポイント。

ブーケの大きさ / 直径約23cm  
製作時間 / 約1時間

右の2つの写真のように真上から見た時は真円を描き、横から見たときは御椀型が理想。(右の写真を参照)

上から



横から

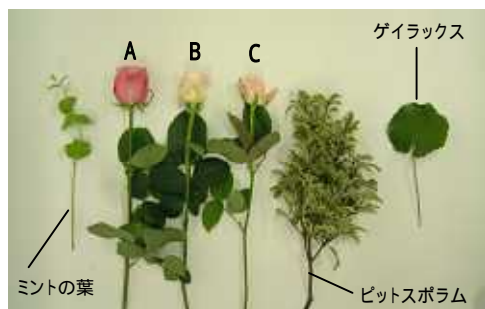


## 用意するもの

### 花材(上写真の場合)

A. バラ(ビューティーバイオーガ) 9本+1本  
B. バラ(パメラ) 4本+1本  
C. バラ(エスター) 10本  
ミントの葉 15本

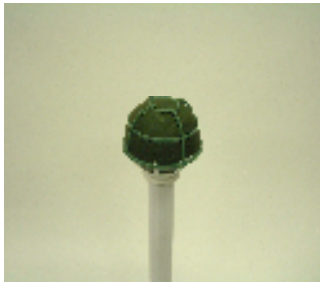
上記の花材の(+ 本)は、ブートニアで使用する本数です。ブートニアもセットで作る場合は、合計本数を用意してください。尚、ミントの葉等、オアシスでないと水の下がりやすいグリーンは、あまりブートニアにはむいていないので、ピットスポラムやレモンリーフ、ミリオングラスなどの強いグリーンをお勧めします。



上写真のゲイラックスはバック処理用(ベーシック3)ですので、チュールを使用の場合は必要ありません。今回ビットスポラムは、ブートニアで使用しますが、ブーケでもミントの代わりに使用できますので、お好みで使い分けください。

# (ホルダーに花を挿す)

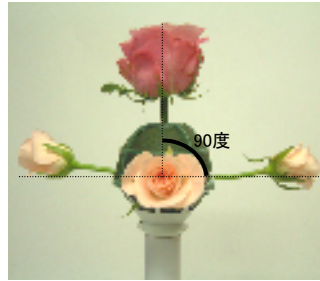
## アウトラインとサイズの決め方



① 十分に水を含ませたホルダーを、ブーケスタンドにセットします。

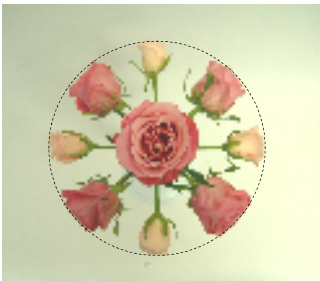


② ホルダー中央の丸い窓に、垂直にバラを挿す。このバラがブーケ全体の高さを決めるバラであり、出来上がった時一番中央の部分(フォーカルポイント)となるため、中でもきれいなバラを選ぶ。このバラが短いとブーケはなだらかな半円になり、優しいイメージのブーケに仕上がります。長ければ高さのある半円になり、強いイメージの仕上がりとされる為、好みのイメージを見据えた長さにします。(ビューティーバイオーガ×1)



③ ②で挿したバラに対し90度に、ホルダーのヘリにバラを挿します。等間隔に4本、中央に向かって挿しましょう。真上から見たときに、②で挿したバラに向かって十文字になるようにします。横から見たとき、四本のバラが一直線上に②のバラに対し垂直になっているか確認しましょう。上から見た写真を見てわかる様に、この4本はブーケの大きさを決めるバラとなりますので、出来上がりを考えて長さを決めましょう。

(エスター×4本)



④ ③で挿したバラの間に上から見て円を描くようにバラを挿します。この4本も③のバラ同様、②のバラに対し直角にさし、先ほどのバラに合わせ直線状に並ぶように円のラインをとります。ここで挿したバラも上から見たときに、②のバラを中心に十文字を描きます。

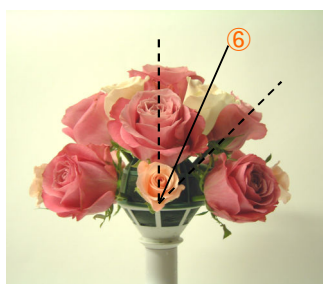
(ビューティーバイオーガ×4本)



⑤ ②で挿したバラと③で挿したバラの間にバラを挿します。間隔は②と③で挿したバラのちょうど中間あたりにくるようにしましょう。横から見たとき、縦のラインと横のラインの45度のところに挿しましょう。このとき横から見たときのラインが見えてきますので、優しい弧を描き、おわん型になるように意識して挿しましょう。ここまでで、ラウンドブーケのおおよその骨組みの出来上がりです。

(ビューティーバイオーガ×4本)

## 空間を花とグリーンで埋める



⑥ ⑤までに作ったアウトラインの中に今度は肉付けをしていきます。まず、4本のバラを②で挿した中央のバラを囲むように挿します。⑤でさしたバラよりも中央に向くように、横からみて②のバラと⑤のバラのちょうど間くらいの角度に挿してください。中央のバラよりも淡目の色をもってくることで、フォーカルポイントをより引き立てる効果もあります。

(パメラ×4本)



⑦ のこりの6~8本のバラで、他の空間を埋めていきます。③と④で作ったサイドのラインと⑤や⑥で挿した中間ラインの間がわりと空いているはずですので、そのあたりの空間を埋めましょう。全部の花を挿し終えたら、残りの隙間をグリーンで埋めていきます。バラで作ったラインをくずさない様にオアシスを隠しながら挿します。

(エスター×6~8本)(ミントの葉15本)



⑦までですべて挿し終わりです。イメージ通りに仕上がりましたか？あとはブーケの裏側を処理するだけですが、使用までに時間があつたり前日に作ったのであれば、ホルダー下部のキャップを外しコップなどに浸しておけば、モールから水を吸い上げてくれるので、できるだけ直前まで浸しておきましょう。ひとまずお疲れ様でした。

筒内のモールが吸水してくれます。



花を挿し終えたら最後にブーケの裏側を処理しましょう。  
そして忘れてはならないのが新郎が胸元につけるブートニア。基本的なブートニアの作り方を覚えましょう。

### ブーケのバック処理

バック処理はブーケの裏側からオアシスや茎などを見えないように整えることです。ここでは二種類の方法を紹介しますので、ブーケの雰囲気やお好みで使い分けてください。



### グリーンで隠す方法

左下の写真のように、ホるダーの裏面の四角い窓に、ゲイラックスなどのグリーンを挿して隠します。この時葉物は葉の表面を裏側から見て手前に向けます。そうすることで花嫁側から見てきれいに仕上がります。持ち手のジャマにならないよう、葉はできるだけ表側に沿わせましょう。



### チュールで隠す方法

もうひとつは、ブーケホルダー専用のチュールをはめこむ方法です。ブーケホルダーのへこみの部分にしっかりとハマるので、最も簡単で安全です。ただし、大きさが決まっていますので、もしブーケの表側からチュールが見えるのがいやであれば、上の写真のように切り取って使うことも出来ます。

### ハンドルの処理

今度はハンドルをリボンで巻き上げループリボンをつけましょう。花嫁が手に持つ部分ですので、滑りにくく、美しく仕上げましょう。



まずハンドルの両側に上から下まで両面テープを貼り付けます。これでリボンを滑らず巻けます。リボンは1mくらいを用意します。

両面テープをめくり、リボンを5cm程下に向かって下ろし、底を通して反対側につけます。そこからリボンを上に向かって巻き上げて行きます。このとき巻き上げているリボンがツヤのない裏側を向いていると、ハンドルが出来あがったときすべりにくくなります。

### ブートニア

ブートニアではワイヤーとフローラルテープを使用します。予備に用意してある分ワイヤーにテープを巻く練習をしてから始めるといいでしょう。ゴールはもう目の前ですよ!!  
バラ・A・B・C 各1本  
ピットスポラム 3枝  
#22裸ワイヤー (バラ用)  
#24地巻きワイヤー緑(G様)  
細リボン 1.2m  
フローラルテープ(グリーン)

ヘッドパーツを作る場合は付属の茶テープを使用。



上まで巻き上げたら、ひとつ前のリボンの輪の中にリボンの端をくぐらせ、キュッと引き上げて留めます。

ループリボンをワイヤーでしっかりハンドルに留めます。で巻き上げたリボンのあまった部分を切ります。

ループリボンを整えたら完成です。美しく仕上がりましたか?



バラを茎2cmくらいでカットし、半分にした#22の裸ワイヤーを子房の下あたりに通します。



切り口に湿らしたコットンを巻きフローラルテープを巻き下ろしていきます。



テープをしっかり伸ばし巻き下ろしていきます。ちぎれるギリギリまで伸ばすと粘着力が増します。



グリーンはワイヤーを絡めて巻きます。これを茶色や黒のテープで巻くとヘッドドレスになります。



ワイヤーを束ね形を作ります。新郎の胸につけるので正面から見て花が全て見える様に。



グリーンを同じく束ねます。花首を隠しながら輪郭をとるように束ねたら、テープで巻き下ろします。



ブーケのハンドルを巻いた時の要領でリボンを巻きます。両面テープは必要ありません。



ループリボンを付けば完成です。付属の紙箱に少し湿らせたガーゼを敷いて、ブートニアピンを忘れずに!